

●第43回京都木津川マラソン大会 申込数5999人 当日受付人数4272人 完走人数3587人 完走率84%・スタート時点の気候 気温5度 降雨 無風。天気予報では5日は雨で、前日までは快晴との予報通りの筋書きで準備には快適でした。全国的に雨ですが、ランナーは練習の成果を試す場として積極的な参加でした。スタッフの皆さんもそれぞれの持ち場で、悪天候の中、本当によく頑張ってくださいました。ご苦労様でした。翌日も曇りで少しぱらつく程度で後始末にはいい天候でした。

里山の会の分担について報告します。

●コース整備 数日前から連日ゲートの点検や走路コースの荒れている場所の補強を実施、特にゲートの開閉には随分と気を使ってくださいました。特にコース上での凸凹の修復に注意し手に負えない車止めの杭の操作は、砂などが入って完全に下りきらないので、手間がかかります。そしてつまづかないように処置をします。そして明示看板の設置も行って安全走行に仕上げます。当日は全コースを一番に回って、ゲートのカギを外して点検となります。スタートして最終ランナーが通過した後、明示杭看板などの撤去を行い、ゲートなどを復旧します。誰よりも朝は早く、競技終了後は最終ランナーが通過後に現状復帰となります。まさに最初で、最後の役割です。ランナーの皆さんからいいコース走りやすいコースでしたと評価をいただく時に、ほっとし、良かったと思います。

●選手輸送 近鉄やJRの駅から徒歩20分は必要なので選手から強い要望があって会場までのタクシーの便を図ることにしています。あいにく朝から雨が降っていましたので、利用される皆さんは大勢おいでになりました。駅に降りられた皆さんを暖かく声をかけて出迎え案内しました。例年になく利用者が多く列が途切れることなく続きました。会場からの帰りの時刻には雨がやんでいたもので、利用者は少なかったです。

●整備金負担駐車場 出来るだけ公共交通機関の利用を呼びかけ、環境マラソンの取組みとして自家用車での参加を控えていただいています。それでも自家用車参加者は後を絶たず、公道に不法駐車が発生し、日曜日に予定されている農作業で、耕運機の侵入を妨げる事態が発生するので、緊急避難的に整備負担金をいただいて、予約制の臨時駐車場を設けています。この対応がなければ地域から猛烈な苦情が寄せられてマラソン大会は開催できなくなります。環境マラソンと銘打っていますが、苦しいところです。しかし予約なしに当日の飛び込みの方も沢山おいでになります。

●会場暖房 冬のこの時期は最も寒さの厳しい時期にあたります。スタート前やゴール後のランナーはもちろん、応援者など皆さんに焚き火を行って寒さ対策のサービスを行っています。大型の石油ストーブもいいのですが、焚き火はかなり多くの皆さんが炎を囲んでいただけるので、大歓迎をいただいています。木津川マラソンでは、なくてはならないサービスとなっています。使用する薪の確保に随分と早く取り掛かからなければなりません。

●手原川エイド エイドが8か所設置されていますが、そのうち36km地点での給水エイドを担当しています。まもなくゴール前となりますし、ここが最も身体的にきつい場所で、事故の発生率の非常に高い位置でのサービスを担当しています。AEDも設置し、看護師さんも応援をお願いして万全を期している重要なポイントを受け持っています。今年は用意したバナナが寒さのせいかもしれませんが、大量に残っていました。

●正門ゲートの建て込み 大会のシンボルがやはりゲートです。ここは風が強くて、かなりしっかりした基礎が必要で、安全確保がされていなければなりません。そこで不法自動車入場をストップする強力な開閉門扉の基礎を利用して立て込みます。組立に1時間は必要ですし、少し控え目にして、4~5人のスタッフが必要です。くみ上げて、現地に立て込む作業が厳しく、安全確保しながら組み立てていきます。今年も立派に立ち上がりました。

●後始末 とにかく雨の後はものすごい泥の海と言って言いすぎでない状況です。四輪駆動車でなければ身動きが取れません。強力な暖房器具を稼働させる発電機や仮設トイレの運び出し、その他設備と備

品の運び出しのトラックが次々と立てこんで身動きができません。泥沼化した中での運搬は軽トラックの四輪駆動が威力を発揮しました。とにかく自重の軽いのが重宝でした。10回ほどの往復で事務局関係の備品類を少量ずつですが、悪路の中を警戒に持ち出せました。午後からは焚き火の消し炭を里山農園の土壌改良に運び込み、つづいて上流(木津川市や精華町)の通行止め協力看板の撤去を行いました。引き続き草内倉庫での整理収納作業。翌日の7日は深田理事長・播川副理事長によって草内倉庫の整理整頓を徹底的に行って、不要物は焼却処分を進めて、コンパクトに納められました。三日目の8日は森島さんが杭やその他長尺ものの整頓に精を出していただきました。炭焼き窯の屋根に納めれば、これで完了です。大会準備を本格的に開始して以来、後始末まで1週間かかりました。長丁場の取組み本当にご苦労様でした。

●**事前準備** 薪の運び込みから収納作業まで 冬の大会で、しかも最も寒さの厳しい時期の開催なので、降雪なども予想されますので、マラソン大会への参加者へのサービスは暖かさの提供です。その薪集めに年中気を配って集積に努力しています。そして乾燥させ燃やしやすいく寸法に切断して割るなどの準備を行い、雨天の中でもベテランの暖房係の腕が発揮され、随分と喜んでいただきました。そして大会備品や物置場所のテント立て、その借用と返納が大変です。そこに机やイスなどの備品類、おうどんの大釜やお玉など想像を超える品物の集積と運び込み、そして返納始まる前の準備とその後始末は想像を超える作業量となります。その後少しの間違いからお鍋の蓋が返っていないとの連絡で天手古舞が数日続きます。落ち着くのに一週間7日は必要となるのです。

●**コース点検** 流れ橋下流。京都府北土木事務所工事で天端幅確保が困難 克服 1月7日に木津川堤防と高水敷での工事業業者との打合せを行って、コースの安全確保にご協力をいただくことにしています。しかし中には出席いただけない場合もあって、徹底を図ったつもりですが、国道一号線の木津川鉄橋の橋脚補強工事や天端に隣接する公園の敷地確認の縁石設置工事が予告なく直前に行われていることが発見されて、急遽対応していただき何事もなく無事終了できました。金曜日の朝早く発見して間に合わせていただきました。

●**近畿「子どもの水辺」交流会** 4日神戸市 県民会館 第10回目の取組みをもって多くの若手リーダーを育成してきた取組みの最終回となる開催が4日、神戸市元町の兵庫県の県民会館で開かれ、実行委員となっている私が抜けることができず、出席しました。京都府関係からは7団体が出席参加しました。里山の会関係では「川がき団」、宇治市の広野中学科学部、などが元気にてきぱきと日頃の活動発表を行いました。閉会式で今回が最終回となることを知らされた子どもたちやリーダーからは残念だといった声が数多く聞かれました。

●**カスミサンショウウオ成体発見 9年ぶり** 読売新聞京都府版で紹介 7日朝刊トップ扱い 卵囊を発見して以来、継続して調査を実施してきましたが、成体を発見することはできませんでしたが、1月22日9人の参加を得て、やっと成体を発見することができました。少し早めにした調査会の結果で、素晴らしい成果を上げることができました。(7日の読売新聞朝刊で、京都府下一円版での扱いとなるこの日のトップニュースでした。

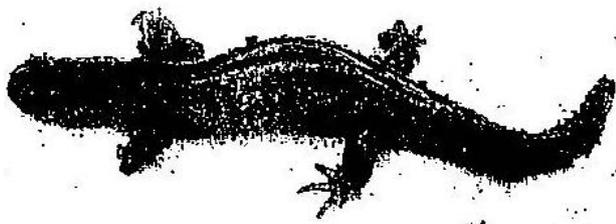
●**23日 河川協力団体の事業発注前の勉強会** 23日(木)13時30分～15:30 京田辺市中央公民館 河川財団から勉強会で里山の会が木津川で実施している希少植物の保全管理についてその方法や範囲、時期について発表の依頼があって、23日(木)午後13時から中央公民館で開催となりました。里山の会の皆さんと河川レンジャー及びアドバイザーと財団職員が出席予定です。

●**里山展 2月14日(火)** 京田辺市中央図書館ギャラリー 「かなび」 木津川の草花たちを展示 結成20周年記念事業 木津川の生育植物写真集 発刊 を中心に展示 917種のうち中心的なものです。

●**レンリソウ発見者鈴木由紀枝様逝去** レンリソウの発見直後から“がん”との闘病を続けてこられました。2月9日(木)に遥で葬儀が行われました。深田理事長、播川副理事長、大村理事長、伊藤千恵子植物部会世話係、山村常務理事が里山の会を代表してお見送りいたしました。ご冥福をお祈りいたします。

京田辺に絶滅寸前種

カスミサハシヨウオ



府の絶滅寸前種に指定されている日本固有種の両生類・カスミサハシヨウオの成体が、京田辺市内で発見された。府南部の自然環境保護に取り組むNPO法人「やましろ里山の会」が約11年にわたる地道な調査で確認した。府は「保護に回せば弾みがつく」と評価している。（上野将平）

カスミサハシヨウオ

カスミサハシヨウオの個体数は少なく、開墾や水田の放棄で環境が悪化。府は種の保存条例で希少野生生物（全25種）に指定し、捕獲や殺傷などを禁じている。府などによると、2005年以降に卵か成体が確認された市内の自治体は、京都市や南丹市、南山城村など計7市町村。京田辺市では同会が07年に調査を行い、山間部の棚田跡で卵塊を見つけていた。

同会はその後、産卵期と孵化期の毎年2月と3月、成体の存在を確かめようと調査を繰り返してきた。昨年3月には約9年ぶりに2か所で卵塊を発見。今年は

府「保護へ弾み」

NPO調査11年

京田辺市で確認されたメスオとみられるカスミサハシヨウオ。
(やましろ里山の会提供)

希少生物の生態に詳しい関係者に「探査の時期を早めては」と助言され、1月22日、昨年に卵塊があった地点の周辺で水辺などを調べた。その結果、落ち葉の下から成体2匹（体長約10センチ）を見つけ、捕獲に成功した。

1匹は全体が黒色で胴体部分が太くなっていることから、同会は産卵準備中のメスと判断。もう1匹は薄茶色でオスとみられる。2匹は元の場所へ戻し、土地所有者と連絡を取って保護への理解を得たという。

同会の山村武正・常務理事(76)は「11年間の努力が結実して、発見した瞬間は興奮した。自然の豊かさを象徴として、市民にも保護の思いが広がってほしい」と強調。府自然環境保全課の鈴木康久課長は「目撃情報があって初めて、種の保存状況や今後の方針を決められる。貴重な発見だ」と話した。